



「ハンガリー国立大医学部」 を目指す学生「事情」

ブダペストは「ドナウの真珠」と呼ばれる景勝地



医学部に入れない学生、外貨が欲しいハンガリー、そして医師不足の厚労省――。

バラバラの悩みを抱える三者にとって「特効薬」になる可能性を秘めたプロジェクトが進行中である。

「ハンガリー国立大医学部」への留学事業は、2006年のスタート。これまでに130人超の日本の学生を、彼の国の3つの国立大

学医学部に送り込んでいる。「日本の医学部入試は、学力を優先し過ぎています」と、運営主体「ハンガリー―医科大事務局」の代表。「故に、医師に必要な人間性を備えた人

物が振るい落とされていくケースもある。ハンガリーの国立大医学部は日本ほど

入学が難関でありませぬし、英語のカリキュラムがある。コストも日本の国立大医学部と同程度。しかもノーベル医学・生理学賞受賞者が過去3名と、人口が約13倍

の日本が1名であることを考えれば医学水準も高いと言える。真剣に医師になりたいという学生にはベストなのです」

ハンガリーにもメリットはある。同国の国立大では、自国の学生は無料。英語やドイツ語、すなわち外国の学生のカリキュラムから授業料等を徴収し、運営に回しているのだ。また、喉から手が出る程ほしい外貨も獲得できる。更に、だ。

「民主党はマニフェストで、医師の数を1.5倍にする

としていますが、医師を1人養成するには、1億円の公金が必要と言われている。でも、ハンガリーで教育してもらえばこれがタダになるわけです」(同)

「上手く回れば『三方一両損』ならぬ、『一両得』になりそうな、好アイデアです」と新渡戸文化短大の中原英臣学長(医学博士)。

「ただ、気になるのはハンガリーの医学教育のレベル。日本の医学部と同水準の養成ができないのなら、ハンガリーに利用されただけの結果になってしまいます」

現在、現地では3年生が最上級生。最速で2年後に帰国し、日本の医師国家試験を受験する学生も出てくる。プロジェクトの真価が問われるのはその時である。

鳩山首相肝いり 「統合医療」予算 にあの応援団

へいのちを守りたいと、願うのです！』とは今年1月

の鳩山首相の施政方針演説。

この「友愛」精神溢るる演説も、支持率下落の歯止めにはならなかったが、一部では鳩山政権に大いなる期待を寄せる人々がいる。

「この演説で『統合医療の積極的な推進』を明言しましたが、これに先立ち年間450億円もの要望を首相に提出したのが、日本統合医療学会です」(業界記者)

統合医療とは、従来の医療に代替医療を組み合わせて治療することだが、代替医療には漢方や鍼灸といった馴染みのものから、アーユルベータ、断食療法、瞑想、パワーストーン、平たく言えば毒物療法のホメオパシーなんてのも含まれる。「日本統合医療学会は実質的に代替医療団体の集まり。一方、日本医師会は統合医療推進に反対です」(同)

鳩山政権は22年度予算を3月24日に成立させたが、「統合医療では10億円の枠を確保しました」とは首相の一声で、統合

医療プロジェクトチーム

を立ち上げた厚労省である。

「今回は漢方分野に限った研究費ですが、どこにいくら使うかは未定です」(同)

何に使うかわからなくとも枠が確保できるとは、「仕分け」内閣にあるまじき。

「450億円はさすがに無理でも、将来的にはさらに拡大するかも。鳩山首相はかつて『統合医療を実現する超党派議員連盟の会』の副会長でしたから。でも、玉石混濁の代替医療に税金をつぎ込むのは疑問です」

とは代替医療に詳しいフリーライターの藤倉善郎氏。「クローン人間で話題になったラエリアン・ムーブメントも、瞑想などの統合医療を推進する鳩山首相の方針を支持する」とホームページで謳っています(同)ごく一部で支持率急上昇。

ラエリアンからラブコール

